

令和3年4月1日

第17回(令和2年度)  
日本原子力学会北関東支部 技術功労賞  
選考結果のお知らせ

「第17回(令和2年度)日本原子力学会北関東支部技術功労賞」の選考において、北関東支部表彰に関する細則に基づいて審議を行った結果、次の1件が技術功労賞に該当すると結論を得ましたので、ご報告致します。

本賞は、北関東支部管内の組織、企業等を対象に、原子力に関する研究開発施設やプラントの運転管理、安全確保等の技術支援分野において優れた貢献をした個人または団体に対して、その功労をたたえるものです。

受賞概要

第35号

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

原子力科学研究所 研究炉加速器技術部 NSRR 管理課

代表 伊藤 匡聡 殿

○ 受賞案件名

「原子炉安全性研究炉（NSRR）における新規制基準対応の完遂及び運転再開」

○ 受賞概要

原子炉安全性研究炉（NSRR）は、昭和50年の初臨界以降、反応度事故に対する原子炉の安全性研究に活用され、そこで得られた知見は国が安全基準を定める際の重要な基礎データとして原子炉の安全確保に活用されてきた。NSRRは、新規制基準の策定に合わせて設置変更許可申請を平成27年3月に行い平成30年1月に許可を得た。その後、安全保護系の工事等を行い、耐震補強を除くすべての安全対策を終えたことから、平成30年6月～9月にかけて暫定的に運転を行った。令和2年3月には、耐震工事を完了し、原子力機構の試験研究炉として最初の新規制基準対応の完遂を果たした。

許可取得にあたり、新規制基準として強化又は追加された耐震、津波、竜巻、火山、森林火災等の自然現象、及び内部火災等の要求事項に対し、原子力規制庁との間でリスクに応じた対応を実施する”グレーデットアプローチ”の考え方が整理され、自然現象に対する適合性審査の効率・効果的適用が進められた。この合理的な審査対応が、早期の運転再開につながった。NSRRの運転再開により、これまで滞っていた燃料破損に関する規制高度化研究やシビアアクシデント時の燃料挙動に関連した研究を計画的に進められ、また炉物理実験等

の研修にも活用することで原子力技術者育成に資する計画である。

このように、NSRR のすべての新規規制基準対応を完了させ、運転再開を達成した業績は技術支援分野に優れた貢献の功労を称える技術功労賞にふさわしいものとする。

○ 受賞者

原子力科学研究所 研究炉加速器技術部 NSRR 管理課

伊藤 匡聡、村尾 裕之、村松 靖之、秋山 佳也、求 惟子、吉村 太助、袴塚 駿、  
吉田 颯馬、川島 和人、渡辺 夏帆、三原 武、谷口 良徳、住谷 直樹、三田地 勇人

原子力科学研究所 工務技術部 工務第1課

青山 征司、安部 朋幸、小野 健太

原子力科学研究所 計画管理部 総務・共生課

小林 誠

原子力科学研究所 放射線管理部 放射線管理第2課

安 和寿、川松 頼光

原子力科学研究所 放射線管理部 放射線計測技術課

辻 智也

福島研究開発部門 櫛葉遠隔技術開発センター

加島 洋一

原子力科学研究所 保安全管理部 核物質管理課

鈴木 寿之

原子力科学研究所 保安全管理部 施設安全課

阿波 靖晃

安全研究センター 燃料安全研究グループ

宇田川 豊、成川 隆文

建設部 施設耐震改修室

神長 宏至、和田 拓也

大洗研究所 管理部 工務課

橋本 卓弥

大洗研究所 放射線管理部 放射線管理第2課

藤 豊